

はしど

練馬区立橋戸小学校
学校だより 第9号
令和2年 1月 8日
校長 青木 俊哉

<http://www.hashido-e.nerima-kyo.ed.jp/>

☆学校教育目標

考える子・思いやりのある子・たくましい子

あけましておめでとうございます

校長 青木 俊哉

元号が変わり初めての新年、保護者の皆様、地域の皆様は、どのように迎えられましたでしょうか。

令和として最初の年明けは、2020年という切りの良い年でもあり、干支は子年ということで、新たなサイクルのスタートです。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される年であり、私たち学校関係者にとっては学習指導要領が全面実施される大きなスタートの年でもあります。様々なところで、切り替えや新しいスタートを意識する年の初めを迎えています。

子年ということで、干支についてちょっと調べてみました。

今年は“庚子”にあたりますが、“子”は、種や芽が出始めようとする時期を意味し、“生まれる”“増える”につながります。そのことから、子たくさんや繁栄・繁盛を示すとあります。また、“庚”は、“更”に共通し、“始める”“改める”につながります。まさに、切り替えが始まり新しいことがスタートする、そんな年と言えそうです。ちなみに、前回の“庚子”は60年前の1960年ですが、この年アフリカではたくさんの国が独立しました。国内では、安保闘争がある一方、所得倍増計画が示され、経済発展のスタートとなった年でもあります。ローマでオリンピックが開かれ、4年後の東京につなげた年でもありました。12年後の子年には札幌で冬季オリンピックが開かれ、スキージャンプ競技で日本選手が表彰台を独占したことは、まだ記憶に残っています。

さて、2学期の終業式では、子供たちに「冬休みは家族で過ごす時間が増えるはずですが、家族のために何ができるかを考え、実行してください。」と話しました。“〇〇のために…”は、昨年も朝会等で何度か子供たちに話してきたことですが、今年はさらに意識を高めたいと考えています。〇〇には、冬休みということで家族を意識させたわけですが、例えば、仲間や友達、クラス、学校、地域（橋戸）、もっと広く捉えて社会や世の中…といった言葉が入る可能性もあります。対象となる相手を意識し、〇〇のために何かできないか、何かしてみよう…と行動することは、子供たちが育っていくこれからの社会を形成するためにきっと役立つと信じています。

今日の始業式では、昨年ノーベル化学賞を受賞した吉野彰さん（リチウムイオン電池の開発者）や、アフガニスタンで灌漑施設の建設等支援活動を進めるなか銃弾に命を落とされた医師の中村哲さんを紹介し、〇〇のために…の意識につなげました。ことさらに“公”を強調するつもりはありませんが、公益や公共が若干軽んじられる風潮の中、〇〇のために…の意識をもち、子供たちが社会の一員として育っていく、育てられていくことを願っております。もちろん、〇〇には“自分”が入ることも考えられます。“自分のために…”は、自分の成長のため、将来のためであり、自立のためとも言い換えられます。一人一人が個人として尊重され、自立した大人に育つとともに、人のため、みんなのために行動し活躍できる、そんな社会の実現に向け、橋戸小の子供たちを育てていきたいと思っています。

本年も、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお祈り申し上げます。